

# えん + じん

発行：  
多賀城市市民活動サポートセンター  
(たがさぼ)

第2号 【毎月1日発行】  
発行日：平成23年11月1日

えんじんは、被災地で生活している方、被災地で復興支援活動をしている方を応援する情報誌です。

## ☆仮設住宅や被災地で在宅生活している方を応援します☆

津波による大きな被害を受けた多賀城市。浸水地域の泥出しや片づけは、社会福祉協議会の「災害ボランティアセンター」が窓口となり、市内外や外国から駆け付けた多くのボランティアの協力によって進められてきました。

被災者のニーズが変わり、「災害ボランティアセンター」から住民の生活を支援する「復興支えあいセンター」に組織が変更された後も、復旧をめざす災害ボランティア活動を続けてきましたが、震災から8ヶ月目となる11月11日(金)をもって、終了することとなりました。今後「復興支えあいセンター」は被災住民の見守りや要援護者への対応、関係各所への橋渡し、外部支援団体やさまざまなボランティアの調整の活動を重点に取り組んでいきます。

過去の災害において、一人暮らしの高齢者などのひきこもりや孤独死が起りましたが、それらを防ぐためには住民同士の支えあいや見守り活動が重要な役割を果たしました。一人暮らしの高齢者などの安否確認をする活

動や、生活の中の困りごとをお手伝いする活動、集会所に集まって、お茶を飲みながらお話しするサロン活動など、より暮らしやすい地域にする活動はさまざま。多賀城市でも仮設住宅の住民同士で立てた企画が動き出しています。

生活に関する困りごとや活動に関する相談ができ、アドバイスを受けられるのが「復興支えあいセンター」です。震災に関するご相談がある方は、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



### 【多賀城市社協復興支えあいセンター】

多賀城市中央2丁目1-1(社会福祉センター2階)

TEL:080-5949-7501 FAX:022-368-7300

E-Mail:sasaeai@tagajo-shakyo.or.jp

HP: <http://msv3151.c-bosai.jp/group.php?gid=10111>

受付時間:9:00~17:00 月~金曜日(定休日:土曜・日曜・祝日)

\* 仮設住宅で支援活動をしたいグループ・団体は下記までお問い合わせください。

TEL:080-5949-7500(仮設支援受付専用)



## NPO相談窓口

被災された方の困りごとや悩みごとに対応する相談窓口を紹介します。

### ●心の「ピアサポート」相談電話●

大きな震災を体験してあなたの心、不安定になっていませんか？心の病を体験した私たちがあなたの心の声に耳を傾けます。お気軽にお電話ください。

対象:震災における「心の悩み」を抱える方  
団体:宮城県精神しょうがい者団体連絡会議  
心のネットワークみやぎ

電話:022-308-6067(仙台)  
時間:午前10時~午後4時(月曜~土曜 祝日は休み)  
HP:<http://miyaseiren.blog97.fc2.com/>

### ●ママパパライン仙台●

子育ての悩みや不安な気持ちを聴く専用電話です。電話を受けるのは専門の研修を受けたボランティアスタッフです。あなたのお話を受け止め、やさしくお聴きします。

対象:子育て中のママとパパ  
団体:NPO法人せんだい杜の子ども劇場

電話:022-773-9140(仙台)  
時間:午前10時~午後4時(毎週金曜)  
HP:<http://sites.google.com/site/morinokodomogeikijyou/>

### ●認定NPO法人 アレルギー支援ネットワーク●

アレルギーでお困りの方のご相談に応じ、医療機関の紹介や生活に関するアドバイスを行っています。また、被災者の方に対し出来る限りの必要な支援(物資を含む)を行っています。

対象:アレルギーでお困りの方  
団体:認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク

電話:052-485-5208(名古屋)  
時間:午前10時~午後5時(月曜~金曜)  
HP:<http://www.alle-net.com/>

### ●生活再建「無料電話相談」●

被災された方々の生活再建等に関する質問に、資産設計の専門家が電話でお答えします。

対象:生活再建を望む被災者の方  
団体:NPO法人日本FP(ファイナンシャル・プランナー)協会

電話:0120-874-002(通話料無料)  
時間:午前10時~午後4時(年末年始を除く)  
HP:<http://www.jafp.or.jp/>

たがさぼでは、東日本大震災による被災で困りごとを抱えた方に対して、上記以外のNPOが取り組んでいる被災者支援活動の情報を提供できます。また、これからボランティア活動を始めた方からの相談や、すでに地域づくりに取り組んでいる団体のみなさんからの相談に応じています。来館はもちろん、お電話でも受付けております。ぜひたがさぼまでご相談ください。

## 震災復興活動紹介コーナー①

# ママたちの底力 ～小さな復興が多賀城を変えた～

## LOVE tagajo プロジェクト

多賀城に住む子育てママたちを中心に結成された「LOVE tagajo プロジェクト」。多賀城駅前での青空市や市内各所でサクスライブを開催するなど、子どもからお年寄りまで幅広い世代へ笑顔と楽しい時間を届けています。

### ●ママたちの「つながり」から生まれました

震災直後、ママたちはご近所付き合いなどでつくってきた「つながり」を活用し、通常営業が困難な店舗の多い中、営業中のお店やガソリンスタンドなどの生活情報を交換し合い、家族を支えてきました。それは常日頃から地域交流をしてきたママたちが持つ独自のネットワークでもあります。

震災から数週間が経ち、予定していたお祭りやイベントが次々に自粛となり、多賀城から賑わいが失われていく様子を目の当たりにし「自分たち自身も楽しめるイベントをつくれれば、多賀城の人たちにも元気を届けることができるのではないかな？」という思いがママたちの間から生まれました。イベント運営が初めての人も多かったですが、多賀城の復興を盛り上げたいという強い気持ちがプロジェクトを加速させていきました。



「みんなのマルシェ」によって賑わう多賀城駅前の様子

### ●広がる「LOVE tagajo」の輪

多賀城の復興を盛り上げ、みんなに元気を届けたいという思いのもと、「LOVE tagajo プロジェクト」はスタートしました。4月24日には、第1回目のチャリティイベント「みんなのマルシェ」を多賀城駅前で開催。思いに賛同してくれた多賀城市内外のお店や手作りブースが集合しました。会場には多くの人たちが訪れ、楽しそうな笑顔が賑わいへと変わり、駅前に活気が戻った瞬間となりました。

その後、ブログやツイッターなどを使って活動の様子を発信したところ、県外から2つのうれしい支援が届きました。

ひとつは、東京在住で多賀城出身の会社員の女性から、多賀城に元気を届けて欲しいとステーキ肉300食分の提供の申し出でした。このことをきっかけに、第2回目の「みんなのマルシェ」を7月23日に開催。今回は、大学生や専門学校生、社会人など30人以上のボランティアが運営に協力し、「LOVE tagajo」の輪が地域

に広がっていく機会になりました。

もうひとつは、「LOVE tagajo プロジェクト」を手伝いたい太宰府在住の市民ボランティア坂井修さんとその思いに賛同したプロサクソ奏者・安武玄晃さんからのサクスライブの提案でした。ライブは「LOVE tagajo プロジェクト」が企画し、6月には避難所、9月にはお店など市内2ヶ所で開催し、多賀城に賑わいをもたらしました。さらに来春、文化センターでも開催する予定です。

最初はママたちの思いから始まった小さな活動も、多くのボランティアや県外からの支援があり、大きな活動の輪へと発展していきました。

### ●小さな灯火から大きな光へ

イベント運営を手がけたことになかったママたちが、復興をテーマに多くの人を集め支援の輪を広げることができたのは、これまで「子育て」「仕事」「家事」を経験してきたママたちの底力だったと、中心メンバーの佐藤真紀子さんは語ります。

ママたちならではの視点で、おしゃれなイベントづくりにこだわったことが、若い世代の関心を集めることにつながりました。震災をきっかけに、若い世代のボランティア活動が増える中、多くの学生、社会人がボランティアとして「LOVE tagajo プロジェクト」を支えてくれたことが、このプロジェクトの特色となったのです。

新しいまちづくりの担い手となる若い世代が復興に向けて汗を流す姿は、未来の多賀城の形を映し出しています。

未曾有の大震災に見舞われ、多く尊い命が失われました。復興を願うひとりひとりの灯火が集結し、やがて「LOVE tagajo プロジェクト」のような大きな光となって、まちを優しく照らしていく活動が増えています。



「LOVE tagajo プロジェクト」のメンバー

団体名 : LOVE tagajo プロジェクト  
電話 : 022-367-8341 (佐藤)  
URL : <http://cocopuru.exblog.jp/>

## 震災復興活動紹介コーナー②

# ひとりの想いから始まった学習サポート

## NPO法人アスイク

### ○被災した子どもの学習サポートを

NPO法人アスイクは、被災した子どもたちに安心して勉強に集中できる環境をつくり学習のサポートを行っている団体です。震災直後は、学習ボランティアを避難所に派遣して1対1、1対2の少人数制の学習支援を行ってきました。多賀城でも避難所となった文化センターや総合体育館で教員志望の学生を中心としたALL東北教育フェスタと連携しながら継続的に活動を行っていました。避難所が閉鎖になってからも活動場所を国府多賀城駅南地区の仮設住宅に移し、毎週土曜、日曜日に小学生、高校生6、7名の学習支援を行っています。

震災から半年が経過し、机に向かうことが少なかった子どもが落ち着いて勉強に集中できるようになったり、学習意欲が向上したりと成果が生まれつつあります。親からも「今後も続けてほしい。」と声をかけてもらうようになり、信頼関係を築くこともできました。



避難所で勉強を教わり、笑顔になる小学生

### ○キーワードは

**「スピード」「情報発信」「つながり」**

アスイクの活動のはじまりは、震災から2週間経った時、ある復興に向けての会議で大橋雄介さん(代表理事)が参加したことでした。その席で行政職員から、学校が避難所となりしばらく学校に通えない子どもが出てくるという話を聞き、安心して勉強できる環境をつくり学習支援をしようと決心しました。そこからは一気に準備を進め、学習塾やNPOなどから勉強を教えてくれるボランティアを集め、資金面の支援を得るために口座を開設し、体制を整えました。さらに、ウェブデザイナーの協力を得てホームページの運用も始め、団体の概要や支援メニュー、活動の様子をウェブ上で積極的に情報発信していきました。特にウェブの活用は、混乱している被災地でリアルタイムに活動の様子を届ければ、幅広い支援が集まると考えたからだそうです。

立ち上げ後は自転車で避難所に繰り返し足を運び、活動をスタート。震災から約3週間が経過した頃には、活動の様子は新聞にも取り上げられ、文具や教材の寄付、ボランティア希望などたくさんの問い合わせ



「アスイク」へ提供された文具

が寄せられるようになりました。その後も避難所生活の親子や支援者との信頼関係を築きながら、3ヶ月で多賀城、仙台、石巻、亘理の4市町でのべ444人の子どもの学習をサポートしました。

大橋さん一人の想いから始まったアスイクの活動も短期間にさまざまな共感者を集め、大きな広がりや成果を生んでいます。一人ではできないことでも、それぞれが強みを活かすことで大きな課題にチャレンジできることを証明しています。

### ○新しい学びの空間

今後、アスイクが目指す活動の展開は、仮設住宅扱いになっている民間借り上げ住宅入居者の居場所づくりです。避難所や仮設住宅に比べて支援の届きにくい家族のため、子どもたちが気軽に足を運び勉強できるスペースの運営を仙台市内でスタートさせました。

団体名のアスイクには「復興後にやってくる明日のために教育を」という想いが込められています。着実に歩みを進めている彼らの活動に注目です。



仮設住宅で学習する子どもたち

団体名：NPO法人アスイク(代表：大橋雄介)  
住所：仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
仙台市民活動サポートセンター内  
レターケース84番  
電話：070-5622-2131  
URL：<http://asuiku.sendai-net.com/>

# 「過去の被災体験」を私たちの道標に

『山が動いた』

発行：くりこま耕英震災復興の会

発行日：平成22年6月14日

今回の震災後、多賀城市には、いまでも県外から多くの支援の手が差し伸べられています。しかし、これからは多賀城市で暮らす私たち自身が支え合い、震災を乗り越えるための取り組みを進めることも大切です。そのための「参考書」になりそうな本が、この『山が動いた』です。

今からわずか3年ほど前の平成20年6月14日、「宮城・岩手内陸地震」が発生しました。この地震では特に栗駒山の中腹に位置する耕英地区が甚大な被害を受け、長期の避難生活を余儀なくされました。当初混乱のうちに避難生活を始めた住民でしたが、やがて自らが生活再建を成し遂げ、住民のニーズと希望を形にするには、自らがそのための「組織」を作ることが必要だと気づきます。そして「くりこま耕英震災復興の会」というNPOを立ち上げ、避難生活と復興の実現に向けて大きな役割を果たすようになりました。この本は、まさにそのNPOが自らの手で編集したもので、被災者自身が被災者や支援組織に取材をし、被災から復興に向けて歩きだすまでの過程を、完全に「当事者」の立場で作りに上げた一冊になっています。

「生き地獄とは、このことかと思っただね。」被災者の

一人がそう形容した絶望的な被災状況から、被災者同士がつながり、被災者と支援者がつながり、そして被災者と行政がどうつながっていったのか。その過程には、地域の違いはあれども多賀城で復興に向かう私たち市民にとって、大きな手掛かりとなるヒントが含まれています。

東日本大震災によって、私たちの生活は大きく傷つきました。しかし過去をみれば、同様の傷を負いながら、なお力強く立ち上がった「先輩たち」の存在に気づきます。その後ろ姿を知り、その歩みを学ぶためには最適な一冊。ぜひご一読ください。



☆たがさぽ文庫で貸し出しています☆

### ■たがさぽ文庫

情報サロン内にある市民活動に関する図書・雑誌が貸出・閲覧できます。震災関連特設コーナーをつくりました。



## たがさぽ事業紹介

# NPOいちから塾

わたしにもできる！身近な所からの“復興支援”

### 第1回NPOいちから塾 開催しました

たがさぽでは、9月27日(火)に今年度最初の『NPOいちから塾』を開催しました。

今回の講座の参加者は、20代～70代までの幅広い年代の11名でした。震災をきっかけとして市民活動やボランティアを始めたいと思っている方やNPOについて知りたいという方が参加しました。

講座の後半で実施した、活動に向けて一歩踏み出すためのワークショップでは、たくさんの震災復興に関するチラシの中から自分が興味のあることを探し、自分のできることをどのように活動に活かすことができるかを考えました。その中で参加者同士が活動内容の情報交換をしたり、イベントへの参加に発展したり、新たなつながりもできました。

参加者からは、「NPOについての基礎知識をわかりやすく知ることができた」「実際に興味のある団体で活動してみたい」「知りたいことを聞くことができてよかった」等の感想がありました。

### 第2回NPOいちから塾 受講者募集

震災復興で注目されているNPOについて、団体の活動事例を紹介しながら、NPOの意味や仕組み、特長などについてわかりやすくお伝えします。

これから活動を始めたい方、NPOについて知りたい方はぜひご参加ください。

日時／平成23年11月26日(土)

午前10時30分～12時

会場／多賀城市市民活動サポートセンター

費用／500円(資料代として当日持参)

定員／15名(先着順)

申込／多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にてお申込みください。

問合せ／多賀城市市民活動サポートセンター

TEL:022-368-7745

### ◇Twitterはじめました◇

市民活動の情報やたがさぽの様子、事業のお知らせなどを発信していきます。ぜひフォローしてください。

URL: <http://twitter.com/#!/tagasapo>

アカウント: @tagasapo

□発行: 多賀城市市民活動サポートセンター  
〒985-0873 多賀城市中央二丁目25-3  
(多賀城市文化センター北隣、上水道部向かい)  
TEL:022-368-7745 FAX:022-309-3706  
ホームページ: <http://www.tagasapo.org/>  
スタッフブログ: <http://blog.canpan.info/tagasapo/>  
□編集: 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター